

## 小児滲出性中耳炎及び副鼻腔炎に対するマクロライド療法の有効性について

なごみ調剤薬局 / 江夏 照晋      にいがた調剤薬局 / 渡部 陽子

### 【はじめに】

耳鼻科領域における14員環マクロライドの少量長期投与は、副鼻腔炎をはじめ近年では滲出性中耳炎に対しても行われている。当薬局の窓口では特に小児の症例において、抗生剤を長期間服用させる不安や有効性に関する疑問を訴える親が少ない。そこで、小児滲出性中耳炎及び副鼻腔炎に対し行われたマクロライド療法について、これまでの経過を見直し、分析・検討を行った。

### 【方法】

平成15年1月から平成17年1月までの期間に当薬局に来局した小児滲出性中耳炎、副鼻腔炎及びその合併例に対し14員環マクロライド(クラリスロマイシン, エリスロマイシン)の少量長期療法が行われた165症例(年齢:0~12歳 平均 $4.6 \pm 2.1$ 歳, 性別:男児88例 女児77例)を対象として、処方せん、薬歴簿から投与期間や経過などについて調査した。

### 【結果】

対象期間中、マクロライド療法により軽快もしくは治癒に到った割合は、滲出性中耳炎 80.2%、副鼻腔炎 85.7%、両者の合併症 77.2%といずれの疾患においても高い有効率を示した。平均投与期間は滲出性中耳炎 $46.3 \pm 25.4$ 日、副鼻腔炎 $25.3 \pm 7.47$ 日、合併症は $39.6 \pm 17.2$ 日で副鼻腔炎の投与期間が最も短かった。今回使用されたマクロライドでEMを服用した107例中49例がCAMに変更となった。これらはすべてEMで症状が改善しないため、より効果が高いといわれているCAMに変更するという理由であった。逆にCAMからEMに変更となった例は65例中11例で、そのうち、症状改善による変更が5例、CAMが苦くて服用できなかった例が5例、CAMの副作用により変更となった例が1例あった。

### 【考察】

本療法の有効性はその抗菌作用ではなく、抗炎症作用、免疫調節作用であるとされている。特に副鼻腔炎に対する有効性は既に確立された治療の一つとなっていて、本検討はそれを裏付ける結果となり、加えて安全性も示された。また、滲出性中耳炎は様々な因子で発症かつ遷延化し、高頻度で副鼻腔炎が合併するが、今回の調査ではその合併例に対しても高い有効性が示された。これは副鼻腔炎が改善することにより、二次的に滲出性中耳炎も改善することが考えられる。次にクラリスロマイシンは従来マクロライド系薬剤に比較して胃酸の安定性に優れ体内移行が良好であるが、比較的味が苦く、粘液調整剤カルボシステインとの同時服用や、ヨーグルトとの混和によりその苦味を増す。これらを踏まえ継続服用の重要性とともに服薬困難を訴える患者への支援を徹底する必要があると考える。

